

URELベースボールリーグ設立5周年

△8面からつづく▽
て、迎えた最終戦。出
場できるという確信は
ないなかで大変でした
ね。

黒木 いや、これは感
覚ですが「最後だから
出してやるだろう」
というのではありません
た。だから、私も来る
べき打席に向けてバッ
トを振り続けていたの
ですが、ホームランし
かイメージしなかつ
た。このことが一番思
い出深いですね。当時
の団長と会えば、この
話しかしない。もちろ
ん、今ではこのような
ことはないと思います
が。



井上仁司法書士事務所
司法書士
井上 仁氏

井上 守備に関する思
い出もあります。ライ
ないしは相手選手で
トを守っていたとき
に、明治神宮球場で夕
方頃になると太陽とボ
ールが重なって見失っ
た経験など思い出すも
のがありますか。

●先ほど川上の例もあ
りました。当時、一緒
にプレーしていました
が、それでもあの環境
は厳しかったですね。



ナミキ
住宅事業部部長
黒木 研二氏

黒木 私の初打席が2
年の時でした。そのと
き対戦したのが、後に
阪神で活躍した葛西稔
(注2)。法政大学の
大エースで、三球三振
初級ど真ん中も振れ
ず、2球目スライター、
3球目アウトコース高
め。震えながら打席に
立っていたからか、手
も足もでなかった。
渡邊 オープン戦では
江川卓(注3)や鹿取

義隆(注4)と対戦し
たことがあります。鹿
取からは1本打ったこ
とがあります。当時は
江川さんも含めて法政
大学がすごいメンバ
ーを揃えていました。
●実際、2014年に
続いて2回目ですけ
ど、明治神宮球場で野
球ができることに対し
てはどのような感慨を
お持ちでしょうか。

渡邊 3年前に久しぶ
りに神宮球場に立つ
て、懐かしく思うとこ
ろもありました。今回
2回目になるので、ど
う思つかはわからない
けれど、参加者の方全
員に良い思い出をして
もらいたいと思います
。神宮球場は傾斜が
あるために外野から見
ると、ホームベースが
見えないのですよ。こ
ういふことは実際にグ
ラウンドに立たないと
わかりません。このよう
な体験はこういうリー

井上 草野球でもプロ
の球場に入ることはあ
りますが、神宮に入る
と当時の匂いがよみが
えりました。当時の試
合前の緊張感なども思
いますが、当時の緊張
した状態と違って今は
楽しくプレーできるの
で、そういう意味では
ノビノビと行えると思
います。

●UBBLを続ける意
義についてはどう考え
ていますか。
黒木 当初は野球を通
じて仕事につなげてい
く発想が強かったと思
います。いざ始めると
きに「ユニフォームを
作ろうよ」と、「作る
ならば母校のものがい
い」といふことになっ
た。母校愛もあり、
「またこれを着ること
ができるのか」と野球
を本気で楽しむ気持ち
にもつながった。UB
BLは9割ほどが未経
験者で、大学野球を経
ずに今プレーしていま
す。彼らにとってもユ
ニフォームは最大のモ
チベーションになって
います。そのようなこ
ともあるからこ
そ、このリーグは
続いたのではない
でしょうか。

●UBBLを続ける意
義についてはどう考え
ていますか。
黒木 当初は野球を通
じて仕事につなげてい
く発想が強かったと思
います。いざ始めると
きに「ユニフォームを
作ろうよ」と、「作る
ならば母校のものがい
い」といふことになっ
た。母校愛もあり、
「またこれを着ること
ができるのか」と野球
を本気で楽しむ気持ち
にもつながった。UB
BLは9割ほどが未経
験者で、大学野球を経
ずに今プレーしていま
す。彼らにとってもユ
ニフォームは最大のモ
チベーションになって
います。そのようなこ
ともあるからこ
そ、このリーグは
続いたのではない
でしょうか。

- 特別実行委員会 メンバー**
- 実行委員長 加藤 光穂 (リブ
 - ・トラスト代表取締役)
 - 委員 芝辻 啓和 (しばつじ事
 - 務所)
 - 委員 井上 仁 (井上仁司法書
 - 士事務所)
 - 委員 轟 智臣 (日新不動産)
 - スーパーパーバイザー 黒木 研二
 - (ナミキ)
 - 議長 吉田 伸成 (リーディン
 - グプロパティ代表取締役)
 - 副議長 中田 隆典 (タックト
 - レーディング代表取締役)

注釈

注1 川上憲伸、元プロ野球選手。1997年ドラフト1位で中日ドラゴンズに入団。その後、2009年より2年間、米大リーグのアトランタ・ブレーブスでプレーし、2015年、2012年より再び中日ドラゴンズへ。2015年シーズンをもって退団。その後、現役続行を模索したが2017年3月に現役引退を表明した。日米通算125勝。

注2 葛西稔、元プロ野球選手。1989年ドラフト1位で阪神タイガースに入団。入団後、先発投手として活躍していたが、90年代後半より中継ぎへ転向。強力リリーフ陣の一角を形成した。2002年シーズンをもって現役引退。通算331試合登板、36勝29セーブ。

注3 江川卓、元プロ野球選手。「空白の一日」の当事者で、1978年ドラフト1位で阪神タイガース入団後、コミッショナー裁定で読売ジャイアンツに移籍。80年代を代表する球界のエースとして活躍した。1987年シーズンをもって現役引退。通算135勝。

注4 鹿取義隆、元プロ野球選手。1978年ドラフト外で読売ジャイアンツに入団、主に中継ぎや抑えとして活躍し、その起用頻度から王貞治監督の「ピッチャー鹿取」は流行語となった。1990年に西武ライオンズに移籍して1997年シーズンをもって現役引退。通算755試合登板、91勝131セーブ。



▲オールスターでの活躍とURELベースボールリーグの更なる飛躍を誓った(左上より轟氏、加藤氏、中田氏、芝辻氏、左下より吉田氏、井上氏、渡邊氏、黒木氏)

井上 野球を通じ
てビジネスの発展
につなげていくと
のこと、私も自
分のビジネスにつ
ながれば、という
思いもありながら
加入しました。同
じチーム同じ大学
出身、しかも全員
同じユニフォーム
は非常に面白く、
リーグでプレーす
る意義がさらに増
えた感じがしま
す。